

令和2年度施政方針

令和2年3月10日

吉野町長 中井 章太

【はじめに】

令和2年吉野町議会第1回定例会が開会され、令和2年度の一般会計予算をはじめとする各議案のご審議をお願いするにあたり、町政運営の基本的な考え方と、新年度の主要な施策・事業の概要について申し述べさせていただきます。

まず冒頭に、私は先般の吉野町長選挙において、多くの町民の皆さまからご信任を賜り、第6代吉野町長として、町政の舵取り役という重責を担わせていただくことになりました。その深い信頼と大きな期待に、責任の重大さを痛感するとともに、それに応えるべく至誠奉公の精神で吉野町の未来のために行政運営に邁進する覚悟でございます。

あらためて町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【町政運営に向けての基本姿勢】

首都圏への一極集中が止まらない中、少子高齢化・人口減少など、地方を取り巻く環境は、さらに厳しさを増しています。吉野町においても、これまでの産業・観光振興による雇用の拡大、子育て支援・定住促進施策の推進等により、わずかに鈍化の兆しがあるというものの、引き続き人口減少・高齢化が進んでいます。

私は、このような社会環境の中で、あえて「少子高齢化・人口減少」という事象に捉われることなく、町民の皆様に寄り添い、向き合うことで真の課題を見つけ出し、不安を希望に変える政策をひとつずつ着実に進めます。

都市の持つ利便性や楽しさに対抗する求心力を、「吉野」という地に、どのように生み出していくか、一過性に終わってしまう政策ではなく、現在・過去・未来に繋ぐ視点を持った政策で、人の流れを創って参ります。

そのために私は、歴史ある地域資源を途絶えさせることのない

未来に繋ぐ3つの柱として、

「人」 人が輝き育つまち

「循環」 地域内経済循環のまち

「安心」 命を守る災害に強いまち、

を掲げ、『心が豊かになるまち吉野町』を目指します。

また「ミニ座談会」の開催などを通して、町民の誰一人として取り残さないコミュニティの実現により、未来に繋ぐ信頼関係を構築します。

【3本の柱「人」・「循環」・「安心」を基軸とする取組】

まずは、私が掲げる未来に繋ぐ3つの柱、「人」・「循環」・「安心」の各フレームについて申し述べます。

最初の柱である未来に繋ぐ「人」づくりについて、「ふるさと吉野への愛着心と生きる力を育む小中一貫教育の構築」をはじめ、「地域産業の事業を承継できる人材育成制度の構築」や「地域資源を活かした企業創出人材の育成」、「官民双方の視点を持った公に資する行政人材の育成」に取り組みます。

2本目の柱である未来に繋ぐ「循環」システムでは、「人・仕事・お金を生み出す地域内経済循環の構築」や「広域連携による資源循環の構築」をはじめ、「人の幸せにつながる交通移動循環システムの構築」、「持続可能な開発目標SDGsを視野に入れた資源循環型社会の構築」に取り組みます。

3つ目の柱の未来に繋ぐ「安心」では、「防災・減災を主眼にした災害に強いまちづくり」や「健康寿命の延伸」、また「生活と産業を支えるインフラ整備と交通手段の確保」や「集会所や空き家等を活用した小さなコミュニティの構築」に取り組みます。

これら歴史ある資源を未来に繋ぐ3つの柱を軸として『心が豊かになるまち吉野町』を目指し、日々の小さな感動を大切にできる町、この町に暮らす人が輝き、その輝きを求めて人が集まる吉野町、わくわく感を肌で感じ、人の賑わいを感じるまちづくりを進めて参ります。

【日本経済の現状と新型コロナウイルス感染症への不安】

令和2年1月20日に召集された第201回通常国会における麻生財務大臣の財政演説では、「日本経済は、海外経済の減速などを背景に、外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善、高水準の企業収益等により、内需を中心に穏やかな回復が続けている。」とする一方で、「自然災害や通商問題をめぐる動向をはじめ、様々な不確実性が存在しており、海外発のリスクには留意していく必要がある。」と日本経済の現状についての認識を示しています。その後、財務大臣が懸念された海外発のリスクが現実のものとなり、中国武漢から広がったとされる新型コロナウイルス感染症が、日本においても、2月中旬以降、急激に国内各地で感染の拡がりを見せました。感染拡大防止を目的として全国一斉に学校の休業措置が要請されるなど、国民の平穏なる暮らしに大きな不安をもたらしています。

またこの感染拡大に警戒感を持った日本の株式市場や海外市場の株価にも大きく影響するなど、今後の日本経済全体にも深刻な影響が懸念される状況にあ

ります。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、本町においても引き続き、その状況に応じて、迅速かつ確実に、町ができる対策を講じて参ります。

【吉野町の財政状況】

国内状況の不透明感が増す中でありますが、吉野町の財政状況についての認識を申し述べます。

歳入では、自主財源の根源をなす町税は約6億8,000万円と減少傾向にあり、一般会計の歳入の半分近くを占める地方交付税も約25億円で推移ながら、減少傾向にあります。また歳入確保のために、平成29年度から毎年度、財源不足を補うため財政調整基金を取り崩して繰り入れる厳しい状況が続いています。

一方で、町の貴重な財源として活用させていただいている、ふるさと納税は、全国各地からご寄附をお寄せいただいた多くの方々のお陰で、令和元年度では2億2千万円を超えました。これは前年度比、1億3千万円の大幅な増となっています。ご寄附いただいた皆様のお気持ちに応えられるよう有効に活用させていただくと共に、全国に向けた吉野町の魅力を更に発信して参ります。

歳出においては、人件費や物件費、広域行政組合等への補助費等の経常的な経費の増加、老朽化が進む公共施設や道路・橋梁等、インフラの維持・整備に対応する必要がある中で、臨時的な投資的事業にかかる予算を除く歳出予算の規模

は、本町人口の減少に関わらず、ほぼ横ばいの状況で推移しています。

地方公共団体における財政構造の弾力性を判断する指標である経常収支比率は、平成30年度決算においては99.8%と前年度比2.9%悪化しており、引き続き堅実で慎重な財政運営が求められています。

【今後の財政運営の考え方】

このような財政状況のもと、令和2年度は「第4次吉野町総合計画後期基本計画」の最終目標年次であると共に、まち・ひと・しごと創生法のもとで策定した「吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の次期目標の設定年度にあたります。

計画に基づき進めている現在の各施策・事業の取組を検証し、その成果を評価したうえで、事業の選択と集中を図り、あわせて働き方改革やICTの活用を通して、業務効率の改善に取り組み、経常経費の縮減に努めます。

令和2年度中に、本町の5年先、10年先を見据えた令和3年からスタートする「第5次吉野町総合計画」に、次期「吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体化させた計画の策定を進めます。同時に、計画に描くまちの将来像の実現に向けた財政面での担保を図ることができるよう、あらたな中期財政計画の策定をおこない、議論を重ねて参ります。

【令和2年度の主要な施策、事業展開の概要】

令和2年度の予算は、「第4次吉野町総合計画」に基づき、段階的に進めてきた主要な施策・重点事業等について精査・吟味しながら、継続性や緊急性が必要な事業を主において、令和2年度の当初予算案を編成したところです。

継続する本町の大きな事業の取組のいくつかを挙げながら、令和2年度における主要な施策、事業の展開について申し述べさせていただきます。

最初に、私が掲げる未来に繋ぐ「人」づくりに大きく関わる事業である『小中一貫教育推進事業』について、小中一貫教育校の令和4年4月開校を目指し、吉野中学校敷地内での小学校舎建築に着手できるよう進めて参ります。

また、継続事業としての『関西ワールドマスタースゲームズ事業』については、いよいよ開催が来年と迫ってきたところから、津風呂湖でのカヌースプリント競技大会に向けた準備を本格化すると共に、本大会のプレ大会として、今年7月に「全国中学校カヌー選手権大会」開催し、開催地としての機運を高めて参ります。

次に、私が掲げる2本目の柱に関わる未来に繋ぐ『循環』システムに関わる幾つかの施策、事業の展開を申し述べます。

吉野町のゴミ処理施策について、将来を見据えた財政負担の少ない、安心かつ持続可能なゴミ処理施策の実現を目指して、検討委員会等を設置し、本年度中にその方針をお示しいたします。

産業・観光振興における施策では、吉野山観光周遊システムについては、県との包括連携協定に基づき、わが町に受け継がれてきた美しい景観と未来に繋ぐ環境にやさしい、周遊システムの構築を検討して参ります。

また、吉野ビジターズビューローが主体となって現在、取り組んでいる『吉野町版 DMO 推進事業』については、観光地経営の視点に立った実効性のある取組として進めて参ります。

また、『鳥獣害防止総合対策事業』について、安心して農作物を作れる環境整備を目指し、生産者の生きがいと美しい田園風景を守る農業政策として総合的に取り組んで参ります。

3つ目の柱として未来に繋ぐ『安心』に関わる施策として、吉野町地域防災計画の改定やハザードマップの作成を今年度でとりまとめ、住民の皆様と防災対策について、情報を共有し、万が一の備えを確実なものとするため進めて参ります。あわせて、奈良県国土強靱化地域計画との整合性を図りながら、大規模自然災害へのリスクを想定した吉野町における国土強靱化地域計画を策定します。

また昨年の国内で起きた自然災害での甚大な被害を踏まえ、町民の命を守ることを最優先として、各地区の防災組織の研修や訓練等を更に推進することや、災害発生時等の情報収集・情報提供手段の確保策など、地域防災計画策定と併行して、これまでの検討を踏まえ、先行して取り組むことができる関連予算を防災対策事業に提案させていただいています。

あわせて、健康寿命の延伸につながる町民の皆さんの福祉の充実にも、それぞれにおかれた立場に配慮した「安心」の施策を展開して参ります。

また、自立した暮らしを営むうえでの「移動」は欠かせないものであることから、スマイルバスなどの地域公共交通について、人の幸せにつながる交通モビリティ（移動）の実現を目指し、公共交通サービスの更なる充実や広域連携の強化、スマイルバスやスクールバスの運行形態の見直し、町内の観光地へのアクセスの見直しを盛り込んだ『吉野町地域公共交通網形成計画』の推進を図り、持続可能な公共交通ネットワークを構築して参ります。

今後、本町の地域公共交通が、生きがい、楽しみを生み、人の賑わいを生み出す拠点と繋がり、将来にわたって暮らしの安心を支え、暮らしやすく、活気に満ちた地域社会の実現につながる持続可能な交通モビリティ施策の検討を更に進めて参りたいと考えています。

以上、令和2年度で提案いたします主要な施策、事業について、その概要を申し述べさせていただきました。

【令和2年度当初予算の規模等】

これら主要施策、事業の関連予算を含めた令和2年度の当初予算の規模は、

一般会計 63億2,500万円 前年度比 6.61%増

特別会計 29億9,184万8千円 前年度比 2.76%減

企業会計 6億6,142万円 前年度比 4.49%減

合計 99億7,826万8千円 前年度比 2.84%増

となっております。

提出いたしました各会計予算案の概要については担当参事から、また詳細については、担当課長等から説明することといたします。

議員各位におかれましては、ご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、提案いたしました令和2年度予算案をはじめとする諸案件につきまして、ご審議のうえ、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます、令和2年度の町政に臨む私の所信といたします。

